



PCT国際段階と五極国内段階における 先行技術文献調査に関する考察

日本知的財産協会

国際第2委員会 第3小委員会

2018年2月23日 関西部会

2018年2月27日 関東部会



国際第2委員会 第3小委員会

メンバー

秦 真也 (2016年度副委員長)
パナソニックヘルスケア(株)

浅井 隆一
富士電機(株)

上地 潤一
理研ビタミン(株)

佐々木 暁嗣
住友ベークライト(株)

田中 寿志 (2017年度副委員長)
(公財) 鉄道総合技術研究所

中島 敦 (WG リーダー)
本田技研工業(株)

福富 剛之
(株)ケーヒン





発表の流れ

1. はじめに
2. 調査対象と分析方法
3. 特許性判断の同一性
4. 引用文献の共通性
5. IPC毎の統計／傾向
6. 各DOにおける引用文献の踏襲・活用傾向
7. 最適なISAとDOの組み合わせ
8. おわりに



1. はじめに

研究の目的

第3小委員会の過去研究との比較

- 2008～2010年：日米欧PCT出願の国際段階と国内段階の特許性判断比較（対象は2004～2010年に国際公開された出願）⇒ 知財管理2011.4
 - 2012年：中国PCT出願の国際段階と国内段階の特許性判断比較 ⇒ 知財管理2014.7
- ISR/JPと五極(日米欧中韓)の国内審査を対象にアップデート
- PCT国際協働調査の有効性を定量的に予測



2. 調査対象と分析方法

- WIPO (PATENTSCOPE) で母集団作成
JPOを受理官庁としてPCT出願が行われ、移行国に五極を含む、2012年国際公開の案件を抽出：195件
- WIPO (PATENTSCOPE) 及びJPO (ワン・ポータル・ドシエ) で分析
ISRのX文献 (単一文献拒絶)、Y文献 (複数文献拒絶) の抽出
国際段階と国内段階のクレーム一致 / 不一致
ISAと五極の特許性判断結果など

五極の有効調査対象件数

JP	US	EP	CN	KR
163件	159件	114件	167件	161件



2. 調査対象と分析方法

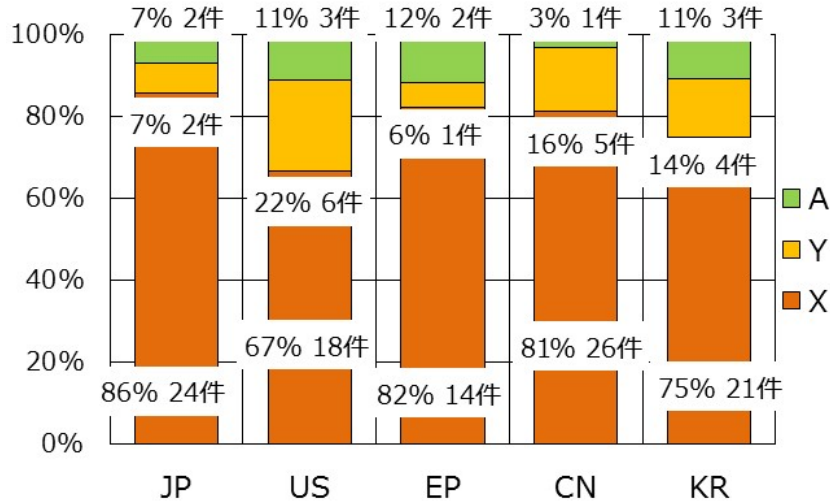
最初の拒絶理由通知までの平均日数

	JP	US	EP	CN	KR
ISR/JP (188件)	928日 (72件) (2位)	1045日 (113件) (4位)	1197日 (89件) (5位)	1026日 (112件) (3位)	912日 (71件) (1位)
ISR, X (40件)	970日 (26件) (2位)	1108日 (24件) (4位)	1142日 (15件) (5位)	1038日 (31件) (3位)	964日 (25件) (1位)
ISR, Y (35件)	816日 (27件) (1位)	1065日 (28件) (3位)	1141日 (16件) (5位)	1068日 (28件) (4位)	900日 (23件) (2位)
ISR, A (113件)	1029日 (19件) (4位)	1011日 (61件) (3位)	1226日 (58件) (5位)	998日 (53件) (2位)	867日 (23件) (1位)

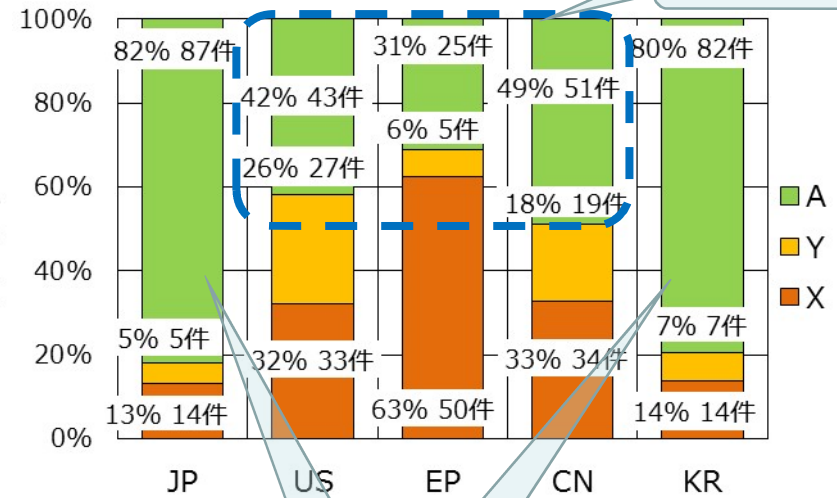


3. 特許性判断の同一性

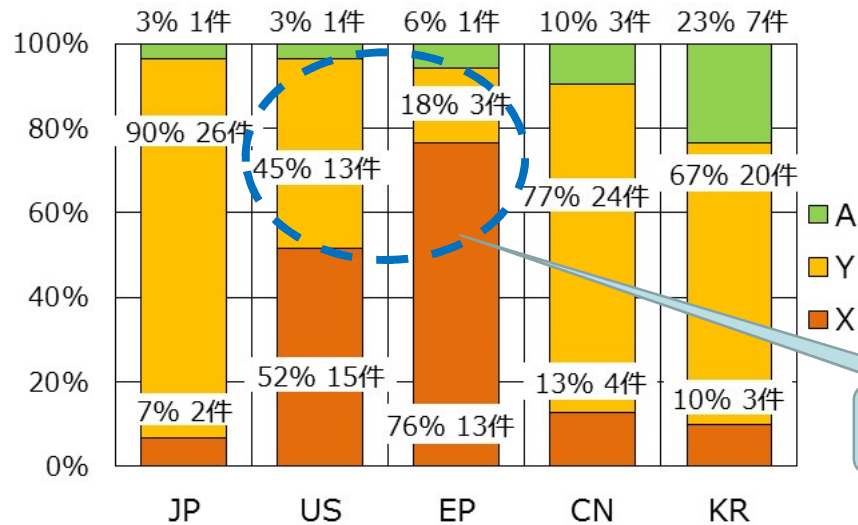
ISR/JP(X) ⇒ DO



ISR/JP(A) ⇒ DO



ISR/JP(Y) ⇒ DO



JP, KRは一致率80%以上

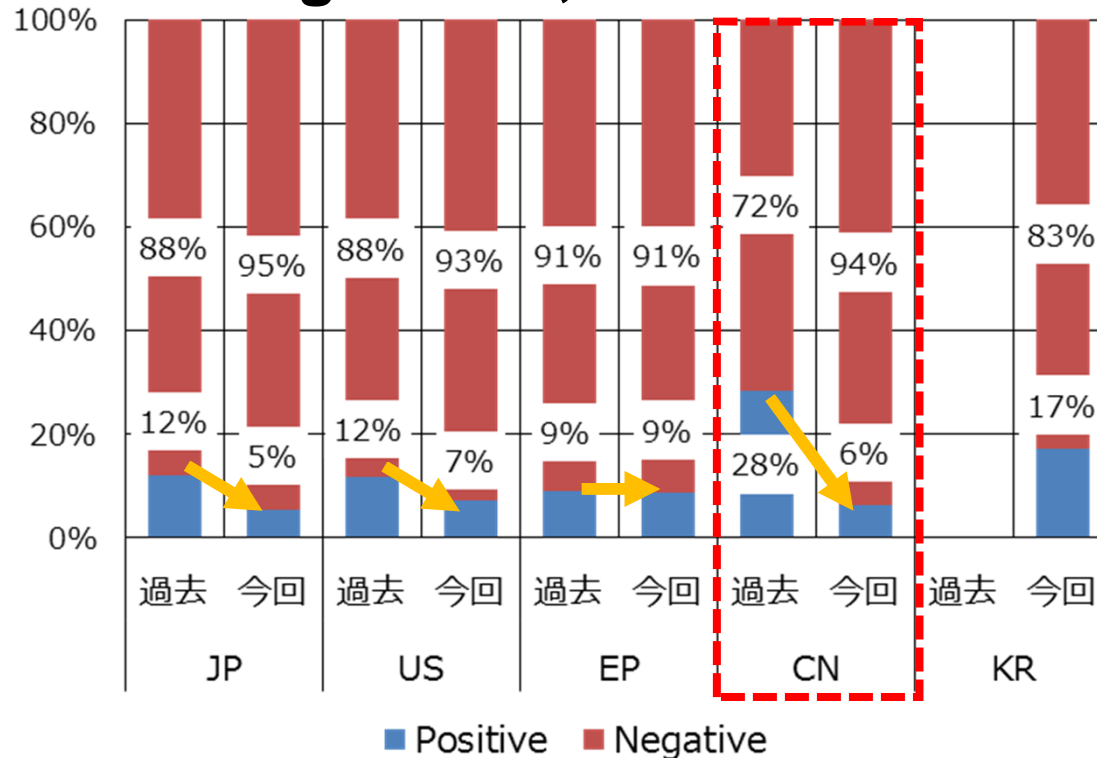
US, EPは一致率50%以下





3. 特許性判断の同一性

ISRと各国審査における特許性判断の一致率
「ISR Negative (X,Y) → DO別 比較」



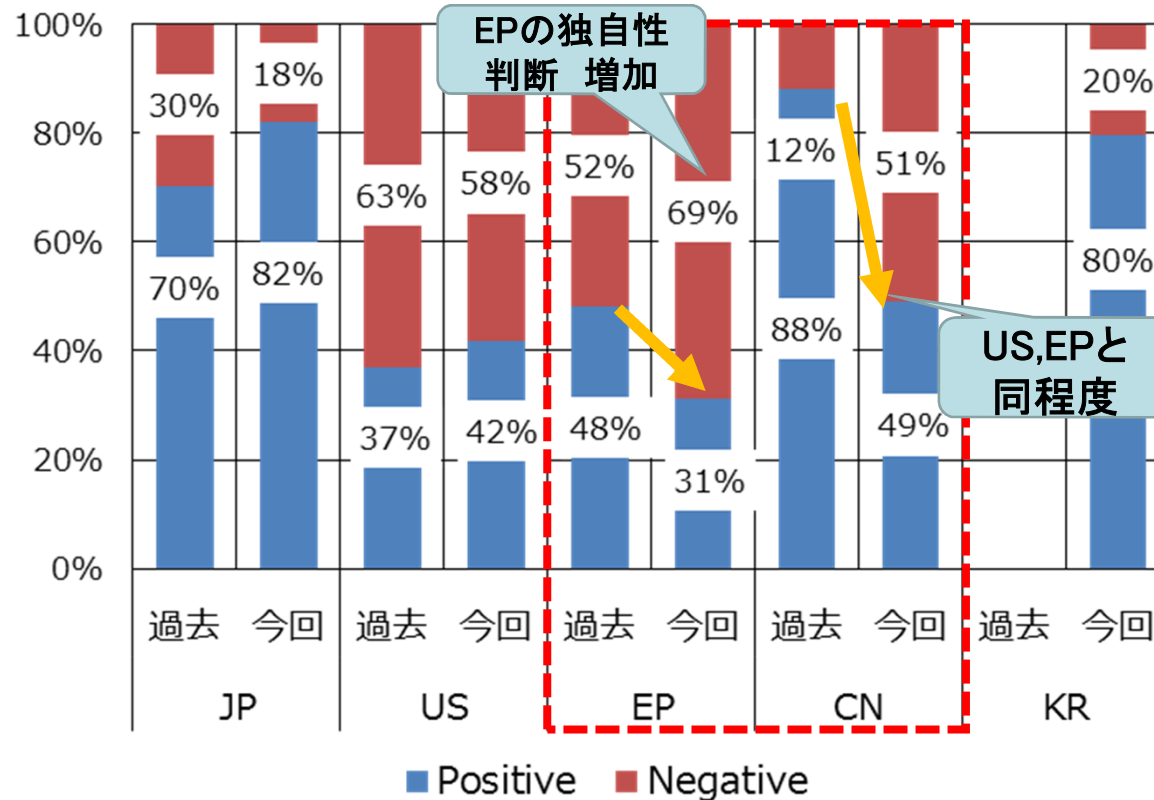
- ・全体的にみて、Negative一致率が上昇傾向
- ・特に上昇が大きかったのはCNで、22%UP(過去72%→今回94%)



3. 特許性判断の同一性

ISRと、各国審査における特許性判断の一致率

「ISR Positive(A) → DO別 比較」



- ・Positive → Negative の率が、上昇したのは、EPとCN
- ・特にCNは39%UP (過去12%→今回51%)

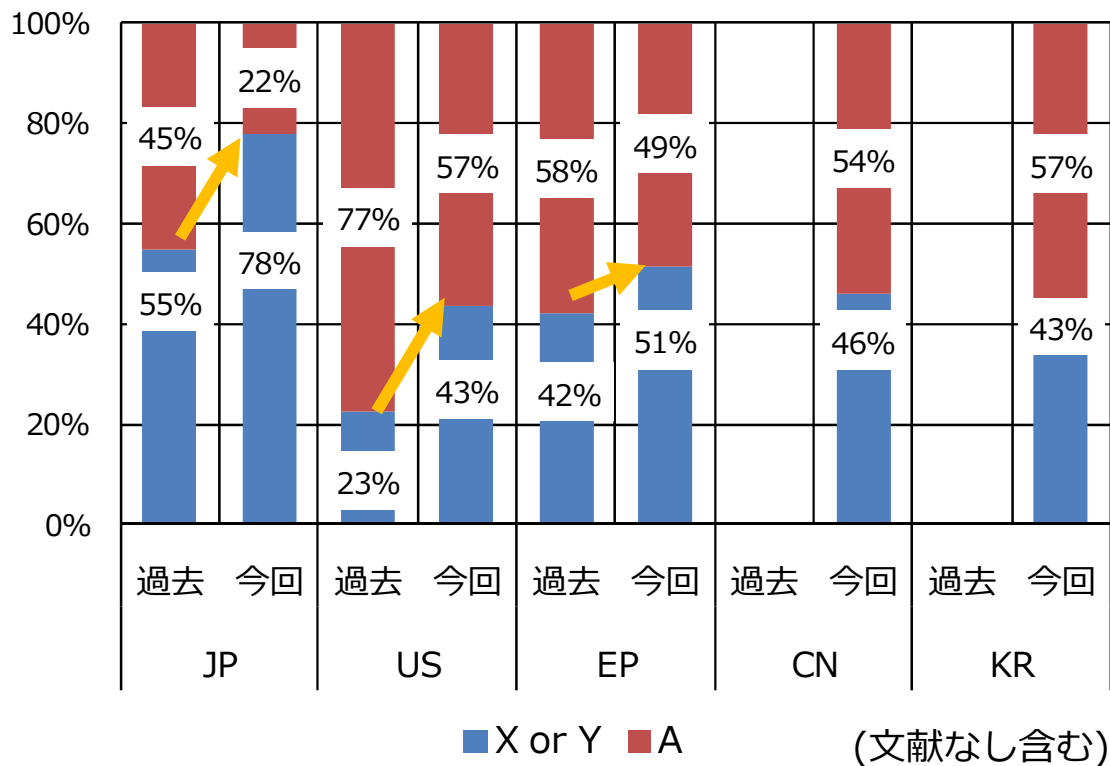




4. 引用文献の共通性

ISRで引用された文献と、各国審査における引用文献の採用率

ISR X文献 → DO 引用文献 比較



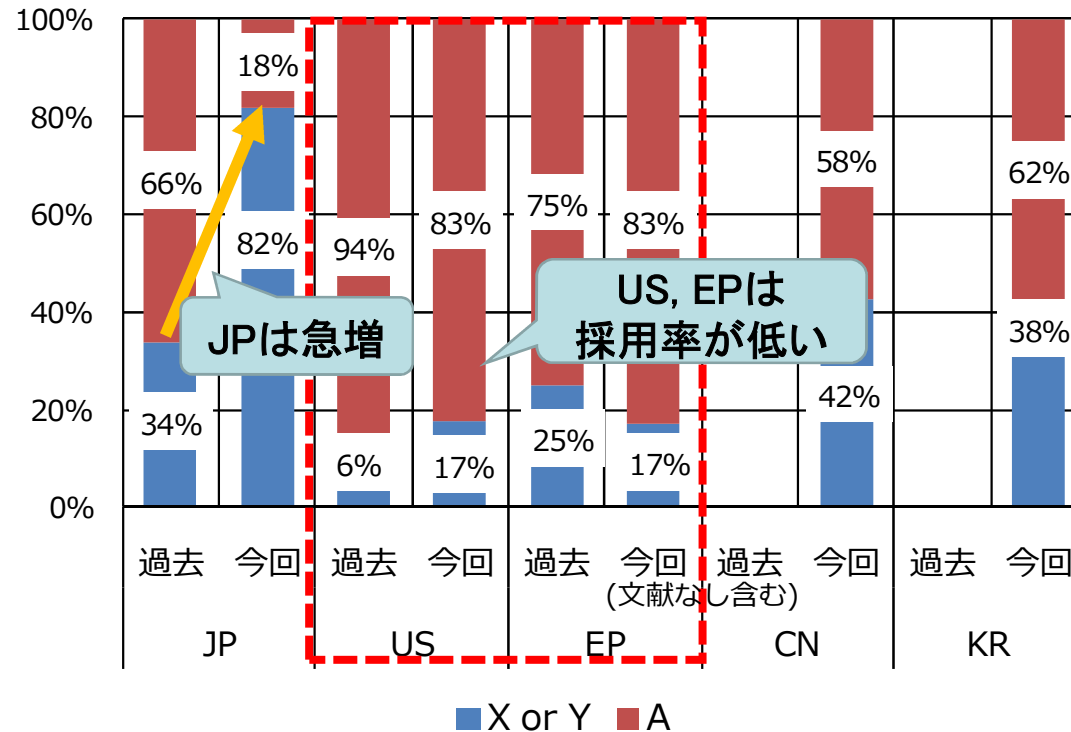
- ・全体的にみて、ISR X文献の採用率が上昇している傾向
- ・特にUSは23%から43%に急増





4. 引用文献の共通性

ISRで引用された文献と、各国審査における引用文献の採用率
ISR Y文献 → DO 引用文献 比較



- ・JPのISR Y文献の採用率が34%から82%に急増した。
- ・US, EPは過去、今回とも採用率が低い。
- ・CN, KRは40%前後でJPとUS, EPの中間的な傾向。

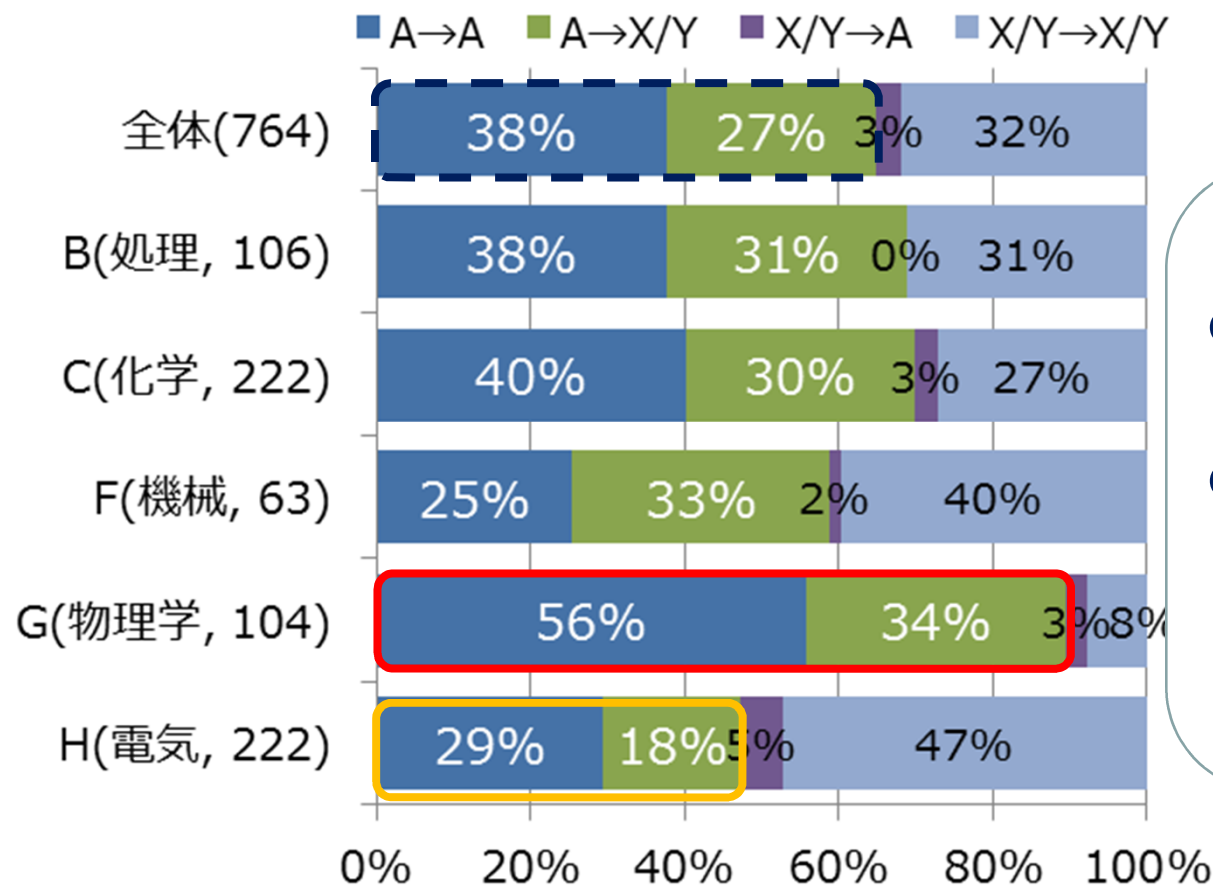




5. IPCごとの統計/傾向

ISRと各国特許庁の特許性判断の同一性を技術分野(IPCのセクションA~H)ごとに検証した。(五極の審査件数764件を分析)

技術分野ごとのISRと各国特許庁の判断(*)



- ISR:Aで各国移行された案件は65%
- セクションGは比率大(90%)、Hは小(47%)

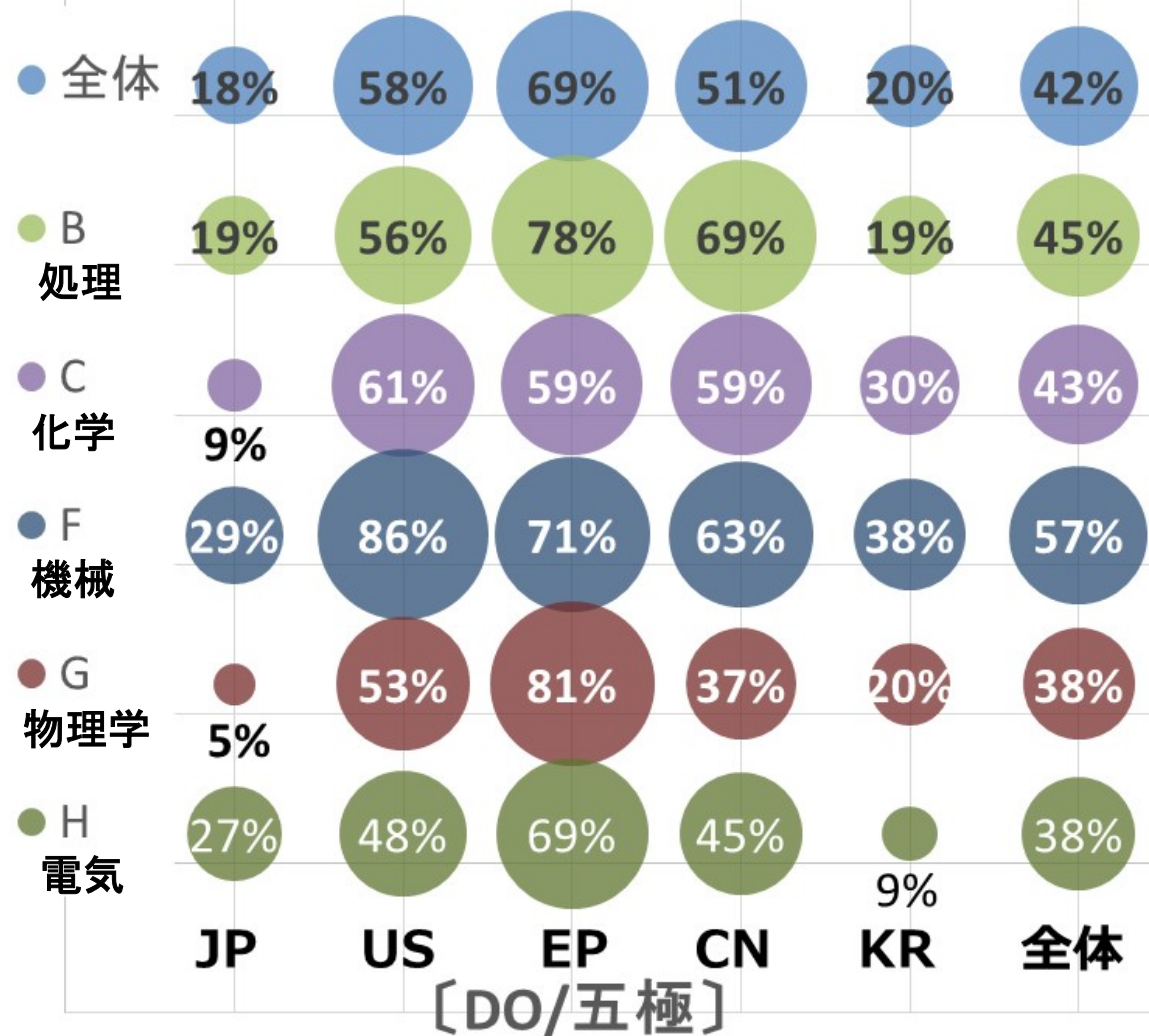
(*) 母数の少ないセクションA, D, Eを除く。





5. IPCごとの統計/傾向

ISR:Aが各国特許庁：XまたはYに変わった割合(セクション別*)



- ISR:Aが各国でXまたはYに変わる比率は42%
- Negativeになる比率はUS,EPで大、JP, KRで小
- JPではセクションC, GでNegativeになる比率がセクションF, Hに比べて小
- KRではセクションHのNegativeになる比率が他のセクションと比べて小



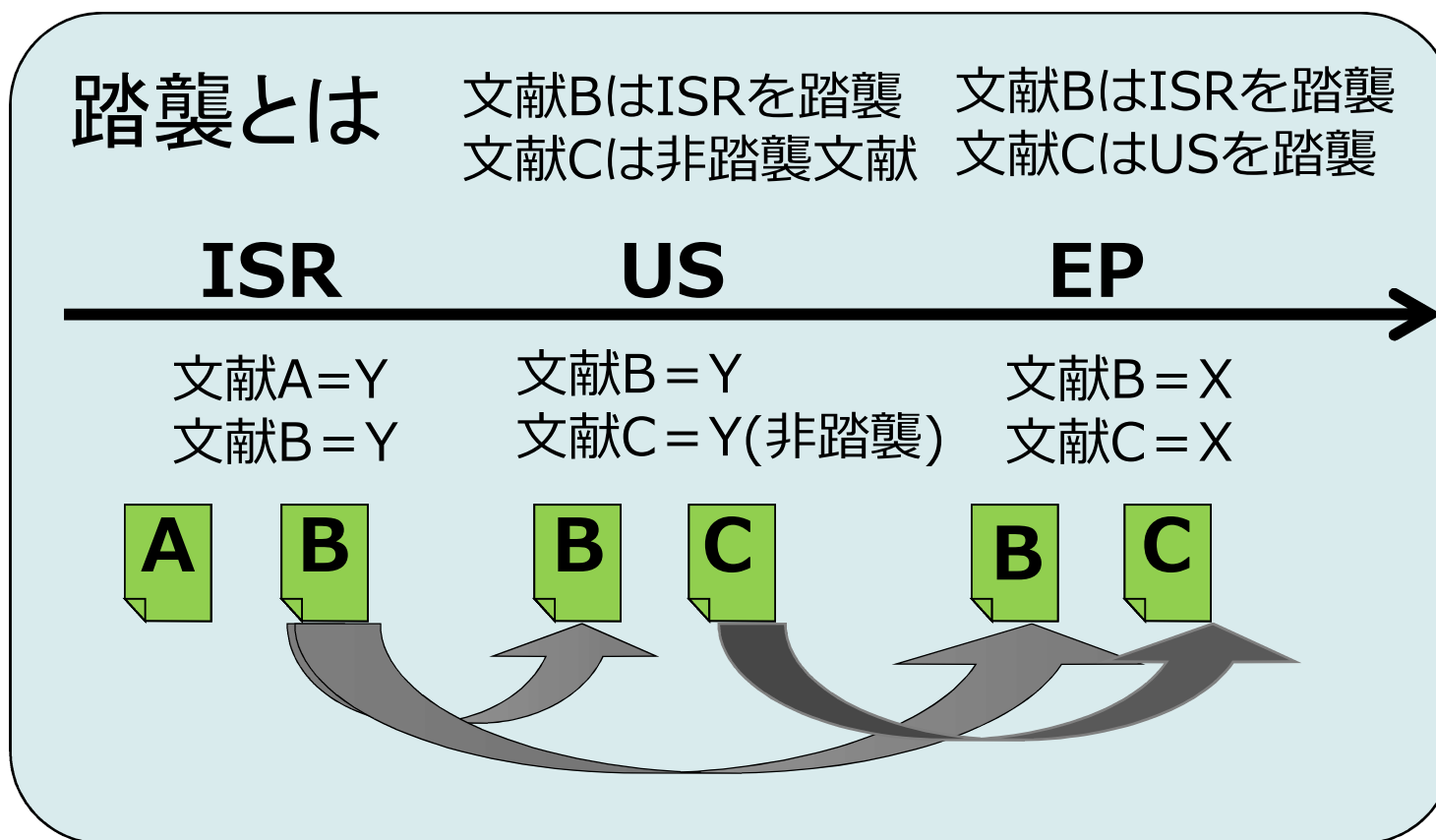
(*) 母数の少ないセクションA, D, Eを除く。



6. DOにおける引用文献の踏襲・活用傾向

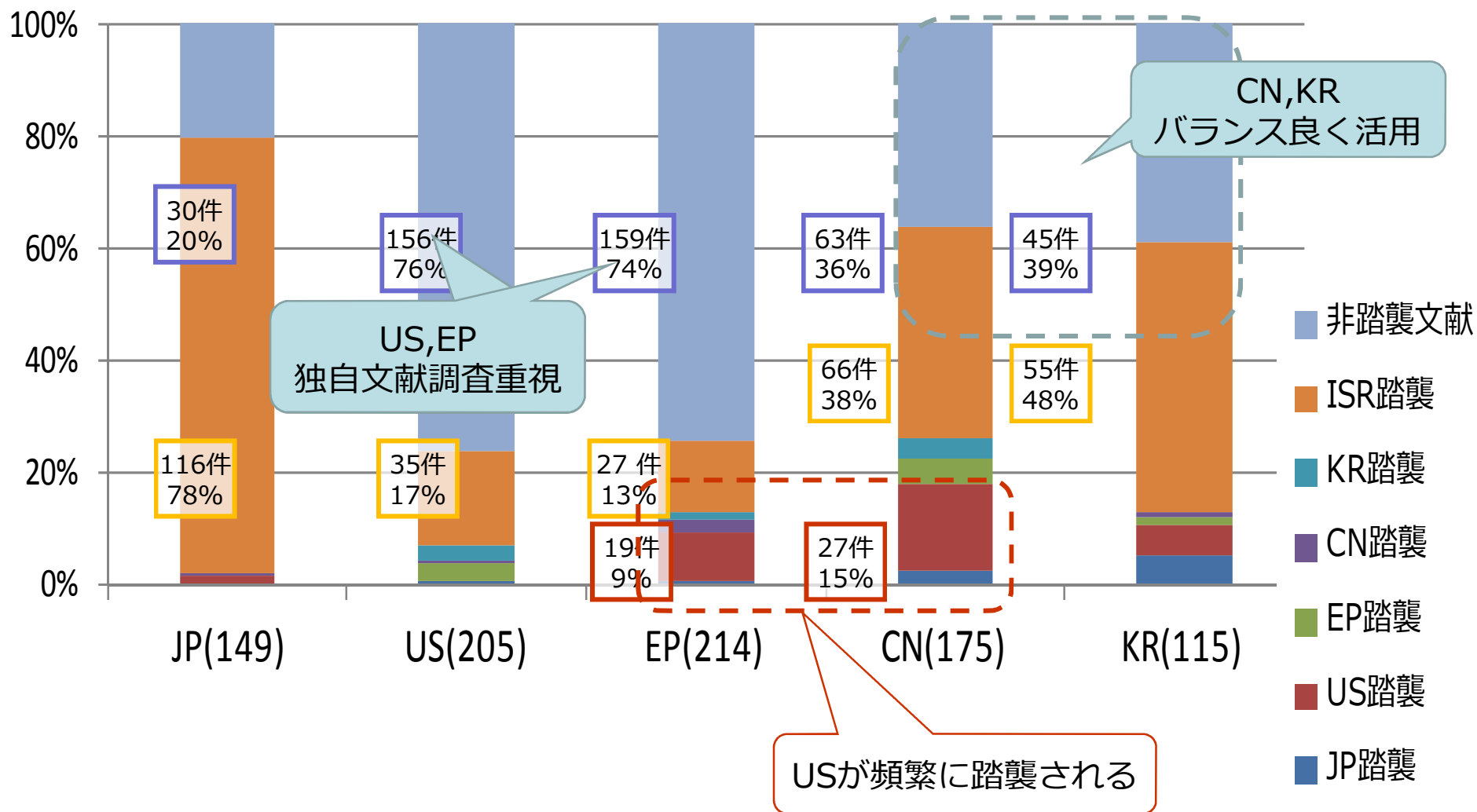
各国審査の引用文献について

①非踏襲②ISR踏襲③他庁踏襲に分類





6. DOにおける引用文献の踏襲・活用傾向





7. 最適なISAとDOの組み合わせ

PCT国際協働調査：五極の先行文献調査を基にしてISR作成方向
(2018年より第三次トライアル)

ISR + 対象DOでどの程度の文献を網羅できるのか調査実施

$$\text{網羅度 (\%)} = \frac{\text{ISR/JP + 対象DOを追加した XY文献数 (重複除く)}}{\text{(ISR/JP+五極) のXY文献数 (重複除く)}}$$

平均網羅度： 案件ごとに網羅度を算出し、各国の特許性判断が有効である案件で平均したものの



7. 最適なISAとDOの組み合わせ

網羅度の比較結果(1カ国目のDO追加)

(1) 全188件の平均網羅度 (%)					
ISR/JP のみ	JP 追加	US 追加	EP 追加	CN 追加	KR 追加
24.0	30.2 (+6.2)	53.0 (+29.0) ↗	57.1 (+33.1) ↗	46.2 (+22.2) ↗	30.7 (+6.7)
(2) ISR/A (113件) の平均網羅度 (%)					
ISR/JP のみ	JP 追加	US 追加	EP 追加	CN 追加	KR 追加
0	11.5 (+11.5)	41.3 (+41.3) ↑	48.0 (+48.0) ↑	32.2 (+32.2) ↗	11.2 (+11.2)
(3) ISR/XY (75件) の平均網羅度 (%)					
ISR/JP のみ	JP 追加	US 追加	EP 追加	CN 追加	KR 追加
55.6	58.5 (+2.9)	71.3 (+15.7)	75.5 (+19.9)	65.4 (+9.8)	59.7 (+4.1)



7. 最適なISAとDOの組み合わせ

網羅度の比較結果(2カ国目のDO追加)

(1) 全188件(1カ国目:US)の平均網羅度(%)					
ISR/JP US追加	JP 追加		EP 追加	CN 追加	KR 追加
53.0	58.8 (+5.8)		79.0 (+26.0) ↑	69.4 (+16.4)	61.6 (+8.6)
(2) 全188件(1カ国目:EP)の平均網羅度(%)					
ISR/JP EP追加	JP 追加	US 追加		CN 追加	KR 追加
57.1	58.5 (+1.4)	79.0 (+21.9) ↑		74.2 (+17.1)	61.2 (+4.1)



8. おわりに

過去研究からの包括的かつアップデートされた情報提供

- 特許性判断の同一性調査
 - ↳ ISRと各国審査のNegative一致率と
EP, CNのPositiveからNegative変化率上昇
- 引用文献の共通性調査
 - ↳ X文献採用率上昇

新規調査(特に協働調査の運用開始に向けた調査)

- IPCごとの統計/傾向: 同一DOでも技術分野間で差
 - 他庁調査の文献踏襲傾向: US, EPは小、CN, KRは大
 - 先行技術を広く網羅するISAとDOの組合せ調査
- 詳細については知財管理誌2017年9月号に掲載

ご清聴有難うございました

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



一般社団法人日本知的財産協会

